



科学技術政策特論

「科学技術政策特論」講義案内

履修登録の有無にかかわらず、多くの学生、教職員の方の聴講を歓迎いたします



平成26年

7月18日 金



16:30-18:00



工学研究院
オープンホール
[B-201]

第14回

科学技術を担う人材を巡る現状と将来

文部科学省 科学技術・学術政策局長
川上 伸昭

川上先生からのメッセージ

日本が超少子高齢化時代に突入する中で、創造性豊かな若者の数が減少してきています。にもかかわらず、若手の研究者の処遇は不安定なままで、学生の皆さんは将来に不安を抱えていると思います。20世紀の終盤から「知識社会」への構造変化が言われてきていますが、知識の源泉は人。人を通じて知は生み出され、発展・伝搬していきます。多様な人材の活躍による豊富な知の生産と、人材の流動による知の伝搬や知識産出力の最適化が、競争力ある知識社会の形成には不可欠なことです。若手の科学技術人材の現状などを振り返り、科学技術人材システムの今後のあり方について、先月まとまった最新の科学技術白書の情報を参考として、考えていきましょう。



川上 伸昭 先生

1981年北海道大学大学院工学研究科修士課程修了後科学技術庁に入る。約10年に亘る原子力安全規制行政経験を基盤に、省庁再編や研究機関改革など科学技術関係の組織・制度改革にしばしば関わった後に、2007年から文科省生涯学習政策局政策課長として第一期教育振興基本計画の策定を通して教育行政にも従事。その間、2000年版科学技術白書を執筆、2001年に文科省科学技術・学術審議会に人材委員会を設置して科学技術人材問題検討の基本的な方向性を作り、2004～5年度に北海道大学客員教授として北大改革を助言。2010年から科学技術振興機構理事として法人経営に参画。本年1月現職に就任し、現在、第5期科学技術基本計画に向けた新政策の検討を中心に活動中。

■担当：工学系教育研究センター

■Mail：ceed-int@eng.hokudai.ac.jp